

# ウィークリー・ブレッド・オブ・ライフ

(2024年12月23日(月)～29日(日))

岸和田聖書教会

牧師 栗原純人

「ブレッド・オブ・ライフ」とは「いのちのパン」(ヨハネ 6:48)。「わたしはいのちのパンです」と言われるイエス・キリストさまをみことばによって食しましょう。今日一日の力です。以下の手順を参考に聖書を読みましょう。

1. 静まります。「しかし私は 義のうちに御顔を仰ぎ見 目覚めるとき 御姿に満ち足りるでしょう。」(詩篇 17:15)。神さまがあなたを呼んでおられます。
2. 声に出してその日の聖書日課を読みます。
3. 気づいたこと、わからないことなどをノートに箇条書きし、その後『みことばの光』、このブレッド・オブ・ライフの文章を読みます。わかったことがあったら、さらに書いてみましょう。
4. もう一度、聖書日課を読みます。違う響きがあるでしょうか？
5. 祈りましょう。実際に声に出して。そして祈りの中心部分を書いてみましょう。一日の終わりに、今朝の聖書を思い起こし、みことばがどのように生きたか、思い巡らしましょう。

12月23日(月)

今日の聖書日課：マタイ 1:18～25

「マリアは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方がご自分の民をその罪からお救いになるのです。」

マタイ 1:21

マリアが聖霊によってみごもったと聞いても、それを信じていなかったヨセフ。しかしこのヨセフにも、マリア(ルカ1章)と同じように御使いが語ります。この男の子の名はイエス(主は救い、という意味)。この子は不貞によって生まれた罪人の子なのではなく、イスラエルの民をその罪から救うお方。そう、あの系図(1～17)に登場した人々をも救われるお方。そして、日本人である私たち異邦人もこのお方、イエス・キリストによって、その十字架と復活によって罪赦されたのです。

12月24日(火) 午後7:30からはクリスマスイブ礼拝をお献げします。

今日の聖書日課：マタイ 2:1～12

「彼らは王に言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者によってこう書かれています。『ユダの地、ベツレヘムよ、あなたはユダを治める者たちの中で 決して一番小さくはない。あなたから治める者が出て、わたしの民イスラエルを牧するからである。』」

マタイ 2:5～6

東の方からユダヤ人の王(メシア)に会いにエルサレムにやって来た博士たち。ヘロデ王は祭司長たち、律法学者たちにキリストはどこで生まれるのかを問いました。彼らは、旧約聖書ミカ書を示して、それはベツレヘムであるとはっきりと答えました。それを聞いて博士たちはベツレヘムに行き、幼子イエスに会うことができました。では祭司たち、律法学者たちは？ベツレヘムに行きませんでした。いや、行けなかったのです。ヘロデが恐くて。しかしメシアですよ！そうです、メシアであってもヘロデのことを考えると行けなかったのです。

私たちも同じ失敗をします。メシア、キリスト、神である方を知っているのに、ほかのものに気が向いて、そこにたどり着けません。2000年前メシアを待ち望むのに失敗した彼らを思いながら、今、主イエスを、再臨を待ち望む私たちは、このお方をこの世にはっきりと示すのです。

12月25日（水）

今日の聖書日課：マタイ2：13～23

しかし、アルケラオが父ヘロデに代わってユダヤを治めていると聞いたので、そこに行くのを恐れた。さらに、夢で警告を受けたので、ガリラヤ地方に退いた。

マタイ2：22

クリスマスを祝う意味の一つに、幼子イエスを思い起こすということがあります。幼子イエスは、自分で逃げられない。常に両親によってベツレヘムからエジプトへ、エジプトからイスラエルの地へ、そして冒頭の聖句。最終的にガリラヤ地方に行きました。幼いイエスはただ守られるだけの子どもだったのです。両親を通して神に守られるだけの幼子でした。

私たちがまた、この幼子イエスを見て、今も神さまだけに守られていることを知るので。

12月26日（木）

今日の聖書日課：テトス2：1～15

その恵みは、私たちが不敬虔とこの世の欲を捨て、今の世にあって、慎み深く、正しく、敬虔に生活し、祝福に満ちた望み、すなわち、大いなる神であり私たちの救い主であるイエス・キリストの、栄光ある現れを待ち望むように教えています。

テトス2：12～13

「その恵み」とは「すべての人に救いをもたらす神の恵み」（11）。この恵みを受けた人はここに記されているような生き方をします。それは、私たちの救い主であるイエス・キリストの栄光ある現れ、すなわち再臨を待ち望むこと。天を見上げ「マラナ・タ」（主よ、来てください）と叫ぶ。そのことは、私たちの生き方そのものなのです。

12月27日（金）

今日の聖書日課：テトス3：1～15

このことばは真実です。私は、あなたがこれらのことを、確信をもって語るように願っています。神を信じるようになった人々が、良いわざに励むことを心がけるようになるためです。これらのことは良いことであり、有益です。

テトス3：8

「このことば」とは以下のこと。「神は、私たちが行った義のわざによってではなく、ご自分のあわれみによって、聖霊による再生と刷新の洗いをもって、私たちを救ってくださいました。」（5）。パウロはこの真実なことばをテトスが確信をもって語るよう願いました。思い込みから来る確信ではなく、それが真実であるがゆえの確信をもって語るのです。あなたの確信もまた、日々のみことばから来ています。

12月28日（土）

今日の聖書日課：ユダ1：1～16

愛する者たち。私たちがともにあずかっている救いについて、私はあなたがたに手紙を書こうと心から願っていましたが、聖徒たちにひとたび伝えられた信仰のために戦うよう、あなたがたに勧める手紙を書く必要が生じました。

ユダ1：3

信仰は戦いです。霊的なサタンとの戦い。ユダの手紙はそのために書かれました。

12月29日（日） 年末感謝礼拝

今日の礼拝説教箇所：ユダ1：17～25 「最も聖なる信仰の上に」

主日礼拝の中では、奥田里柄姉が信仰の証しをしてくださいます。